

作物名：大豆

病害虫名：マメシンクイガ（学名：*Leguminivora glycinivorella*）



写真1 幼虫、被害粒



写真2 幼虫の脱出孔

1 被害状況

(1) 被害の特徴

- 幼虫は莢内に食入し、子実を食害する。
- 子実は、主にマメの縫合部が半円形にかじられる。莢内に細かい糞が残る。莢のごく若い時期に食害を受けたものは不稔となる。

(2) 虫の特徴

- 幼虫：体色は橙紅色で、体長は約9～12 mmになる。

2 生態

- 年1世代発生。
- 幼虫が、土中で越冬、越夏し、8月下旬～9月上旬に成虫が現れる。
- 成虫は、日没前にダイズの草冠部を盛んに飛び回るのを確認できる。長さ2～4cm以上に達した莢に好んで産卵する。
- 幼虫は莢内に食入して子実を食害する。10月上旬から莢に穴を開けて脱出し、土中で繭を作り越冬する。生育期間は卵1週間、幼虫2～3週間。

3 発生しやすい条件

- ダイズの連作(4年以上)で被害が大幅に増加する。
- 成虫の移動性が低く、発生したそのほ場で繁殖し越冬する。

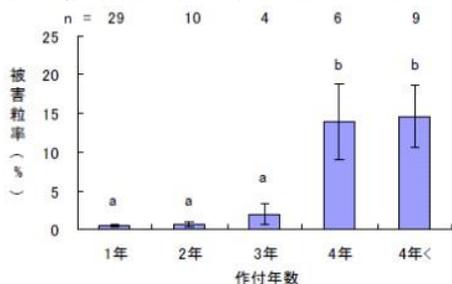


図1 ダイズの作付年数とマメシンクイガの被害粒率

同じ添字は、5%レベルで有意な差がないことを示す (Tukey-Kramer 法)
平成 20 年 宮城県古川農業試験場図中の縦棒は、標準誤差を表す
※普及に移す技術第 84 号「マメシンクイガのダイズの総合的有害生物管理 (IPM) のための防除法」参照

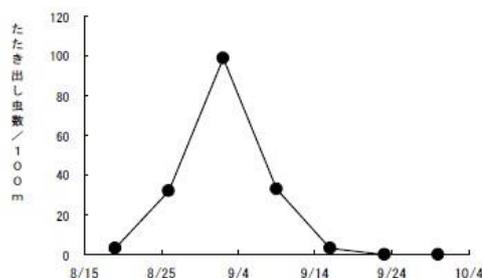


図2 マメシンクイガ成虫の発消長

※普及に移す技術第 84 号「マメシンクイガのダイズの総合的有害生物管理 (IPM) のための防除法」参照

4 防除方法

(1) 耕種的防除

- 連作年数を1～2年以内として水稲との輪作を行う。

(2) 化学的防除

- 殺虫剤の散布は、ふ化幼虫の莢への侵入を防ぐため、成虫発生盛期からふ化盛期に行う。成虫発生盛期の年次変動は小さく、9月上旬が防除適期である。
- 残効機関の長いピレスロイド系またはジアミド系殺虫剤が有効である。

5 出典

(1) 参考文献

- 原色病害虫診断防除編 1 (農文協)

(2) 写真

- 宮城県病害虫防除所撮影

(令和5年9月改訂)